

概 要	内 容
療養上の世話	<p>療養上の世話における熱傷が3件報告された。  (第5回報告書 113 頁、第8回報告書 138 頁、第9回報告書 170 頁、第10回報告書 143 頁、  第11回報告書 132 頁)</p> <p>1) 患者はシャワー浴で麻痺側の左手を、支えになりそうな混合栓の上ののせて入浴していた。麻痺があったため混合栓を熱いとも感じなかった。シャワー浴後、左手に水泡、表皮剥離に気付いた。</p> <p>2) 看護師は素手で指を1、2秒入れて湯の温度を確認したが熱いという印象はなく、施行中は手袋を使用した。洗浄後臀部の皮膚が茶色に剥がれており、2度の熱傷と診断された。  (事例概要については本報告書106頁 図表Ⅲ-121番参照)</p> <p>3) 下半身麻痺の患者に保温の為、湯たんぽを準夜帯で使用した。湯たんぽ(ゴム製)は患者の足先から離していたが、次の日の昼にシーツに血液付着があることに気付いた。左第3～5指からの出血、皮膚剥離があった。湯たんぽは作成時90度弱の湯を使用して作成した。</p>